

教えて!

コミュニティ・スクール

教育委員会の担当者にお話を伺いました。



社会教育課 小暮社会教育指導員



教育指導課 菊池指導主事



どうしてコミュニティ・スクールという制度が始まったのですか?



教育は、地域住民にとって身近で関心の高い行政分野です。学校だけで担うのではなく、広く地域の方々の意向を踏まえて行われる必要があるとされ、始まりました。



地域の人の意見などを取り入れるために、地域住民や保護者が学校運営協議会の委員になっているのですね。学校運営協議会とSCSCではどのようなことをしているのですか?



学校運営協議会には、校長が示した学校運営の基本方針を承認すること、学校運営について校長に意見を述べるという大事な役割があります。こうした役割を踏まえて、学校のことやこどもたちのこと、地域のことなどについて話し合い、解決すべきことには地域住民も学校と一緒に考えて、SCSCとしてさまざまな取り組み(6~9ページ参照)を行っています



学校とこどもたちにとって、とても心強い存在ですね



そうですね。今、学校は「地域とともにある学校」を目指していて、授業を通じて地域づくりに貢献することが求められています。これまで、学校は地域の人々にいろいろな支援をしていただいていました。しかし、これからは学校も支援されるだけでなく、地域の一員としての役割を果たしていくために地域づくりにも関わっていきます。そのための役割を担うのがコミュニティ・スクールです

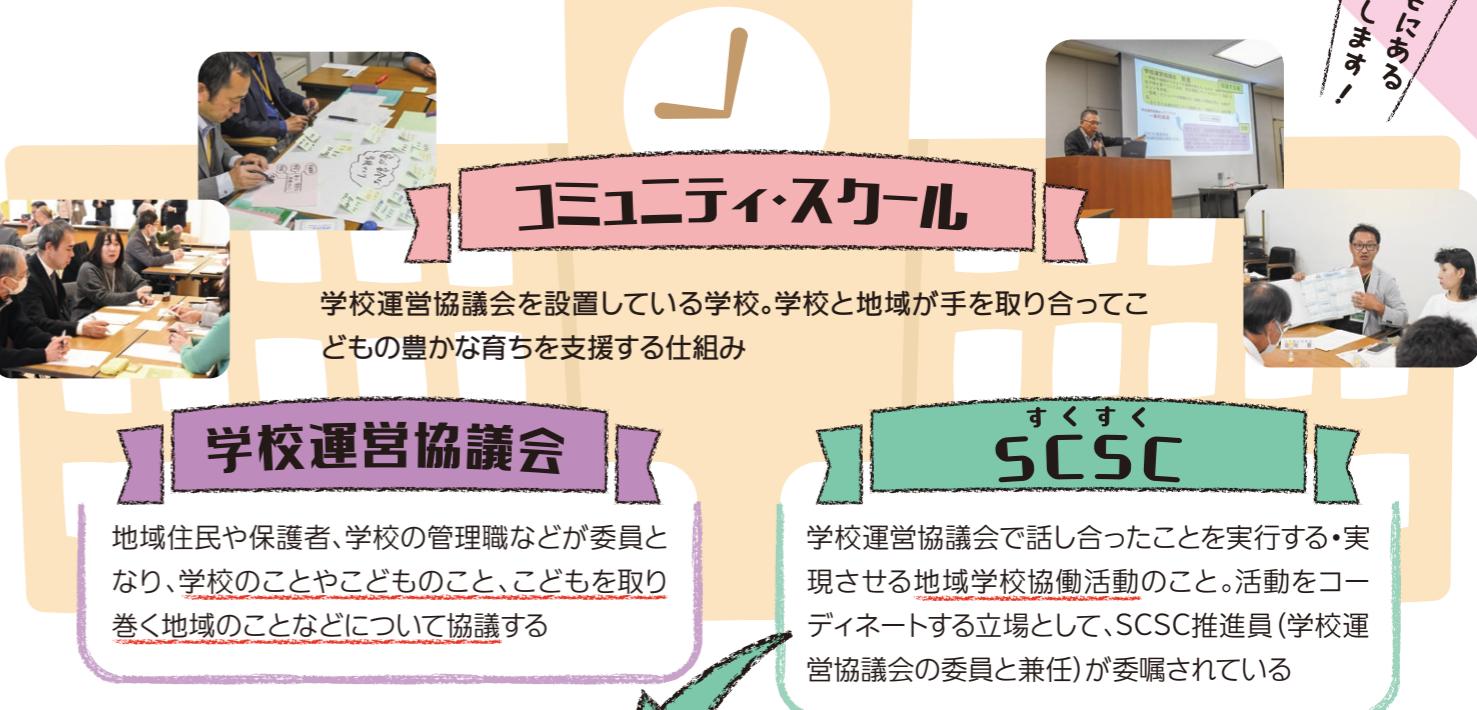


なるほど、学校と地域が一緒になって“良い学校”“良い地域”をつくりていこうということですね

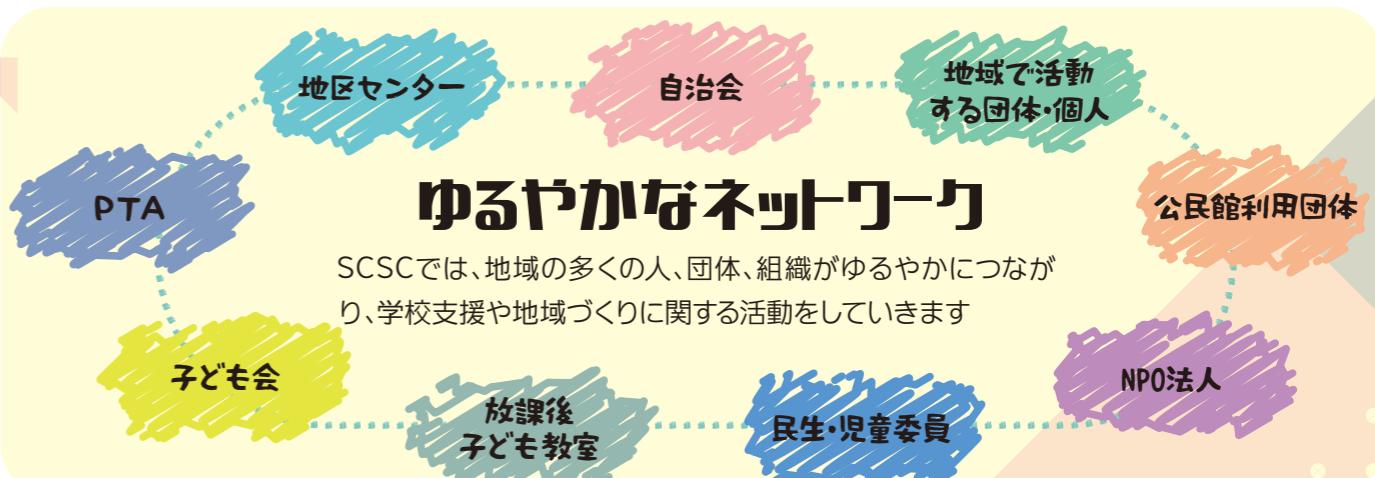
地域と共に歩む 地域がつながる コミュニティ・スクール

学校が地域住民などと目標やビジョンを共有し、地域と一緒に歩む仕組みとして、文部科学省が推進しているコミュニティ・スクール。市では7年4月に全ての公立小・中学校に学校運営協議会が設置され、全校がコミュニティ・スクールとなりました。

今月は、事業に携わっている方々のお話や活動の事例を中心に、コミュニティ・スクールについてお伝えします。



市では、地域学校協働活動の略称を「SCSC(すくすく)」と表記しています。これはSayama Community School Collaborationの頭文字で、地域と学校の協働により、こどもがすくすく成長できるように学校づくり・地域づくりを進めようという意味が込められています



“まちの先生”から学び、多様な経験

広瀬公民館と連携し、地域で活動しているサークルの方を講師として、授業が行われました



広瀬小学校区

押し花の会あすなろによるレインボー学級への押し花の授業です。鮮やかな花を並べて作るモチーフのかわいらしさに喜ぶ子どもたち。優しく丁寧な声かけで教わりながら、思い思いの作品を作り上げました。

押し花の会あすなろ なぐもてるこ 名雲照子さん

この取り組みのために新しく準備しているというより、普段の活動でも使用している材料を提供してこどもたちに作ってもらっているので、無理なく協力することができます。授業が始まると、こどもたちは夢中になって押し花を作ってくれますし、その時の楽しそうな顔を見られることができがやりがいになりますね

3、4年生を対象に阿波踊りのむさし葵連が授業を行いました。狭山市入間川七夕まつりで見ることはあっても、自身が経験するのは初めてのこどもたちがほとんどです。掛け声に合わせて踊りは熱量を増し、たくさんの人に笑顔が溢っていました。

むさし葵連 としや 木村俊也さん

いろいろなスポーツがある中で、阿波踊りをやる機会はあまりないと思います。学校で授業として取り上げてくれることで、阿波踊りの普及になります。こどもたちに教えることは、私たち大人にとっても勉強になっているのでWin-Winの関係です。他の習い事などは同じ世代の中でやるものが多いですが、阿波踊りの連には小さい子から年配の方までいますので、いろいろな世代の人と関わりながらできるのが良い



こどもがさまざまな人と出会い、幅広い経験ができる



知りたい!

SCSCの取り組み

それぞれの地域で行われているSCSCの取り組みを、関係者のコメントとともにご紹介します。

笛井小学校区

地域の伝統芸能である笛井豊年足踊りを身近に

笛井豊年足踊り保存会の方々を講師として招き、3年生を対象に授業を行っています。保存会の方の実演を見た後、足での踊りや太鼓演奏の練習を行いました。実際に授業を受けたことで興味を持ち、保存会の活動に参加しているこどももいます。

笛井豊年足踊り保存会 小峰孝男さん

こうして授業で触れてもらうことで、興味を持ってくれるような子がいれば、やる意味があるのではないかでしょうか。太鼓を覚えるのも、1曲であれば授業内に覚えてもらうこともできますが、ちゃんと習得しようと思えばある程度の修練が必要になります。授業の後も続けていきたいと言ってくれるような子がいてくれたら、伝統芸能を保存していくことができます。そのきっかけになってほしいですね



例年開催している笛井小バザーでは、さまざまな催しと合わせて会場内で笛井豊年足踊りを披露しています。多くのこどもや地域住民が訪れる場所で皆さんの目に触れることで、伝統芸能の周知につながっています。当日は飛び入りで太鼓の体験も。

同会 鈴木一歌さん(高校1年生)

私も笛井小の出身です。お嬢子は小学校3年生から、足踊りは5年生から続けています。日本の音楽が大好きで、太鼓をやりたくて保存会に入りました。練習は隔週金曜日であります。学校やアルバイトもあるので出られるときには、自分の地元にこうした伝統芸能があることは嬉しいです。私のように関心のあるこどもたちが増えくれたら良いなと思います



地域に誇りを持ち、関わる人が増えることで地域が活性化する



学校と家庭だけじゃない みんなの居場所「ポッカぽか」



柏原小学校区

柏原公民館では月に2回、放課後にこどもたちが集まって自由に過ごせる場所を作っています。手作りのおもちゃなどを用意し、大人も見守りはしていますが、基本的にはこどもたちが自分たちで考え、宿題をしたり、友達と遊んだりしながら楽しんでいます。

ポッカぽか 鈴木悦子さん

こどもの居場所作り事業を始めたきっかけは学童で働いていたことです。今と昔では、こどもたちの人との関わり方が変わってきているように感じました。こどもが友達や大人と自由に関わりながら、自分で考えて楽しく遊べるように、それから、不登校の子や学童に入れなかった子の受け入れのために、仲間と公民館と話し合いをして立ち上げたんです

安全安心な地域に みんなで110番の家を確認

「こども110番の家」は、こどもたちが身の危険を感じたときに駆け込んで助けを求める場所として、地域の方の協力を得てさまざまな所に設置されています。授業でこどもたちが自ら意見を出し合い、110番の家が少ない所に新たに設置してもらいました。さらに、地区内の設置場所を一覧化してスタンプラリー形式で回り、110番の家を確認しました。

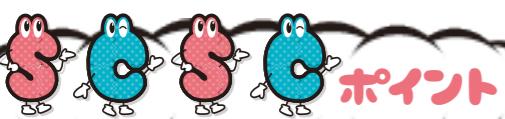


5年生 あかりさん

たくさんの場所を回って、それぞれの110番の家の人が「スタンプはここにあるよ」と教えてくれました。その人たちと話せたり、顔が分かるようになつたりしました。いざというときに今回覚えたことが役に立つと思います

あかりさんの保護者

110番の家はここにもあったんだね、なんて話しながらスタンプラリーをして、場所が分かるようになって安心しました。近くの場所だけではなく、少し離れた場所も確認できたことが良かったです



地域全体で子育て、見守りを行う体制づくり

ふるさとに親しむきっかけづくり

語り部グループななこ会と学校の図書ボランティアによる「夏の読み聞かせ会」が開催されました。堀兼公民館を会場に、ふるさと学習の一環として“ほりかねの民話”が分かりやすく語られました。小学生だけでなく大人や地域の保育園に通う園児も参加し、自分たちが生活する地域のことと、そこで活動する人々のことについて知るきっかけとなりました。



堀兼小学校区



全世代で祭りの熱気を高めて固く結束



入間川小・中学校区

「鵜ノ木夏祭り」では、小学生が山車を引き、中学生が神輿を担いで地区内を巡行しました。巡行の最終地点である入間川中学校のメイン会場では、盆踊りやbingo大会、吹奏楽部の演奏などが行われ大人もこどもも一緒に盛り上がりいました。



御狩場小学校区

